

# 援助隊の活動本格化

東日本大震災の被災者や避難住民を支援するため、県内の自治体や県警などから派遣された各援助隊や医療チームの活動が13日、現地で本格化した。県消防防災ヘリコプターに乗り込んだ県消防防災航空隊は宮城県内で同日までに計15人を救助。新たな医療関係者の派遣や救急物資の発送、街頭募金活動も行われるなど、被災地へ向けた善意の輪は日ごとに大きくなっていく。

## 東日本大震災

県石巻市に入って活動。4人を救助し8人を救急搬送した。13日も同県塩釜市などで11人を救助。7人を救急搬送、物資輸送も行った。

# 県防災ヘリ15人救助

## 新たな派遣、物資発送も

県消防防災ヘリコプター「きびり」は12日午後、山形空港から宮城



毛布が入った段ボール箱をトラックに積む県職員ら＝岡山空港

県内14消防本部で編成する緊急消防援助隊は13日午後4時半、宮城県総合運動公園総合体育館(同利府町)に到着。国際医療ボランティア・AMDA(岡山市)も、菅波茂代表ら4人が第3次派遣チームとして仙台へ向かった。既に現地で調査に当たっている医療チームと合流。それぞれ14日以降に医療活動を開始する。

12日に現地入りした災害派遣医療チームDMAT(ティーマット)の岡山赤十字病院チーム5人は福島県内の病院で、川崎医科大学付属

## 毛布や飲料水 県、鏡野町搬送

県は国際救援物資として岡山空港に備蓄する毛布1520枚を宮城県に陸上輸送することを決め、13日午後8時ごろから10トトラックに積み込んだ。同県南三陸町や大和町、七ヶ宿町などの避難所となっている町役場や学校などで配布する。鏡のつく町名が縁となり福島県鏡石町と防災応援協定を結んでいる鏡野町は、鏡石町が震災で断水が続いているため、ペットボトル入りの飲料水やお茶計約6トと非常用給水袋千枚、携帯用カイロといった物資をトラックなど3台に積み込み、職員6人が現地に向かった。

代表の小林英将企画課長補佐は「少しでも早く現地に物資を届けたい。人的支援などについても現地で協議したい」としている。緊急交通路区間通行標章交付へ輸送業者に県警東日本大震災発生で緊急交通路に指定された高速道路の一部区間に

## 義援金受け付け開始

本社、山陽新聞社会事業団 山陽新聞社と山陽新聞社会事業団は13日から、東日本大震災の被災者への義援金の受け付けを始めた。期間は交付日から1カ月。余震の恐れがあるため、指定区間では時速50キロ以下の走行を呼び掛けている。

## 岡山駅前で街頭募金



地域づくりやボランティアに取り組み県青年団(中園謙二会長)は13日、東日本大震災の被災者救済に向けた街頭募金をJR岡山駅前で行った。ボランティアサークルなどのメンバーを含め約80人が参加。10カ所に分かれて通行人に呼び掛けた。募金した岡山市立旭東中2年難波亜以さん(14)は「テレビで惨状を見て協力したいと思った。宮城に友達がいるけど、メールが返ってこない」と心配そうだった。集まった募金は日本赤十字社を通して送る。

## 岡山駅前

県内の宗教者らでつくる人道援助宗教NGOネットワーク(RNN)も同日、岡山駅周辺で義援金を募った。国際医療ボランティア・AMDA(岡山市)の支援に充てるといふ。また、県や日本赤十字社県支部などは震災の募金活動推進本部を設置、14日から県庁や同支部、県社会福祉協議会、県共同募金会の窓口などで義援金を受け付けることを決めた。

岡山市も義援金募集を14日から始めると発表。市役所や区役所、市社会福祉協議会などに持参するか、指定口座に送金する。